

卷頭言

数学における「ファー・トランスファー」

数学部会長 佐藤 啓之

令和3年6月に書面議決により実施された数学部会総会におきまして、釜范徳行先生の後任として部会長を務めることになりました千葉県立袖ヶ浦高等学校の佐藤啓之です。微力ではありますが、千葉県高等学校教育の振興のため誠心誠意努めてまいりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスの影響がさらに深刻度を増し、この原稿を執筆している8月上旬の時点では、東京都で5000人以上、千葉県でも1000人を超える新規感染者数が発表されています。昨年度のような休校措置には至っていませんが、引き続き感染防止対策を徹底しなければならぬ状況下で、学校行事にもさまざま支障が出ています。

6月18日に流山南高校で開催を予定していた総会・春季大会は2年連続での書面会議に変更いたしました。会員皆様のご協力により全ての議案が可決されました。この場をお借りして、お礼申し上げます。また、8月24日に国際医療福祉大学にて開催予定であった見学研修会も、緊急事態宣言発出により社会情勢を考慮して来年度に再延期となりました。ご準備いただいた関係の皆様には心からお詫び申し上げます。

さて、令和2年度初めの休校期間に「オンラインによる動画配信」等によるICT活用の必要性を痛感した方も多と思います。実は、コロナ以前から最先端のICT技術を活用して、深い学びを効率的に進めるために全ての授業をオンライン化し、「世界のエリートが今一番入りたい大学」と言われている大学があります。「ミネルヴァ大学」です。この大学は校舎を持たず、学生は全員が寮生活で、4年間でロンドン、台北など7つの国際都市を巡回し、滞在地で現地の企業、行政機関、NPO等との協働プロジェクトやインターンを経験しながら学習を進めます。さらに授業は20人以下の少人数で行われ、私たちが考えるような「講義」も「テスト」さえもなく、学生は授業者の指示でディスカッションを行い、個人の発言時間や発言量、発言内容によって評価を受けます。

この「ミネルヴァ大学」の創設者であるベン・ネルソン氏は、身に付けるべき「21世紀型スキル」のうち「ファー・トランスファー」と呼ばれる能力の重要性を説いています。これはメタ認知スキルの中核を成すもので「転用可能なスキル」を意味し、「特定のコンテキストの下で学んだことを異なる教育分野に応用する能力」を指します。さらに、この大学の究極の目標を「初めて経験する状況でもやるべきことがわかる人材の育成」と述べています。

このようなスキルは、令和4年度からの新学習指導要領に謳われている、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」に繋がるもので、私たちは各学校において生徒の実態を十分把握し、数学で学ぶさまざまな知識や技能の他教科とのつながりを意識させ、ひいては社会において必要とされる実用的なスキルの獲得へと繋げていけるように、カリキュラム・マネジメントを推進していく必要があると言えます。

最後に、高等学校教育の一層の発展と本県高等学校数学教育を担う先生方のますますのご活躍を心より祈念いたします。